



一般社団法人
日本化学工業協会



災害・事故時の漏洩・飛散対策 化学産業の取組について

2026年7月29日

一般社団法人日本化学工業協会

取り組みの必要性

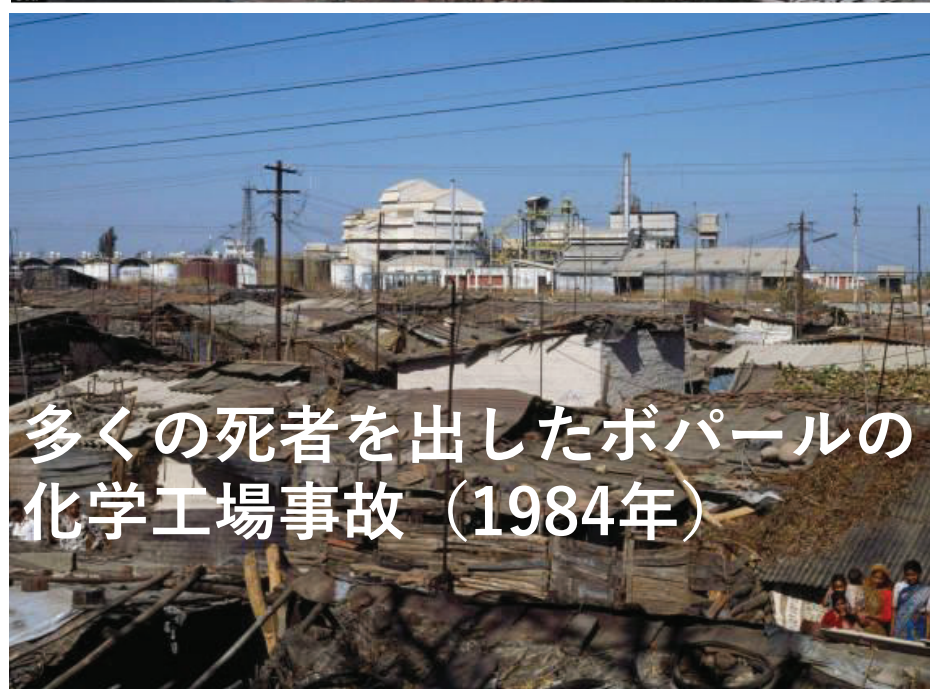


集中豪雨による鐵工所
からの油流出（2019年）

毎日新聞



東日本大震災：千葉製油所の
LPGタンク火災爆発（2011年）



多くの死者を出したボパールの
化学工場事故（1984年）

getty images



RESPONSIBLE CARE™
Driving Safety & Sustainability



International
Council of
Chemical
Associations

Responsible Care® Global Charter

Responsible Care is the global chemical industry's unifying commitment to the safe management of chemicals throughout their life cycle, while promoting their role in improving quality of life and contributing to sustainable development.

As a signatory to the Responsible Care Global Charter my company will actively strengthen the Responsible Care initiative worldwide and is committed to:

- 1 A Corporate Leadership Culture that proactively supports safe chemicals management through the global Responsible Care initiative
- 2 Safeguarding People and the Environment by continuously improving our environmental, health and safety performance; the security of our facilities, processes and technologies; and by driving continuous improvement in chemical product safety and stewardship throughout the supply chain
- 3 Strengthening Chemicals Management Systems by participating in the development and implementation of lifecycle-oriented, sound-science and risk-based chemical safety legislation and best practices
- 4 Influencing Business Partners to promote the safe management of chemicals within their own operations
- 5 Engaging Stakeholders, understanding and responding to their concerns and expectations for safer operations and products and communicating openly on our performance and products
- 6 Contributing to Sustainability through improved performance, expanded economic opportunities and the development of innovative technologies and other solutions to societal challenges

The Ethic of Responsible Care is to “Do the Right Thing and Be Seen to Do the Right Thing”

ICCA（国際化学工業協会協議会）の「RC世界憲章」は、**化学物質の安全性向上と環境・健康の保護を目指す化学業界共通の自主的な取り組み指針**です。

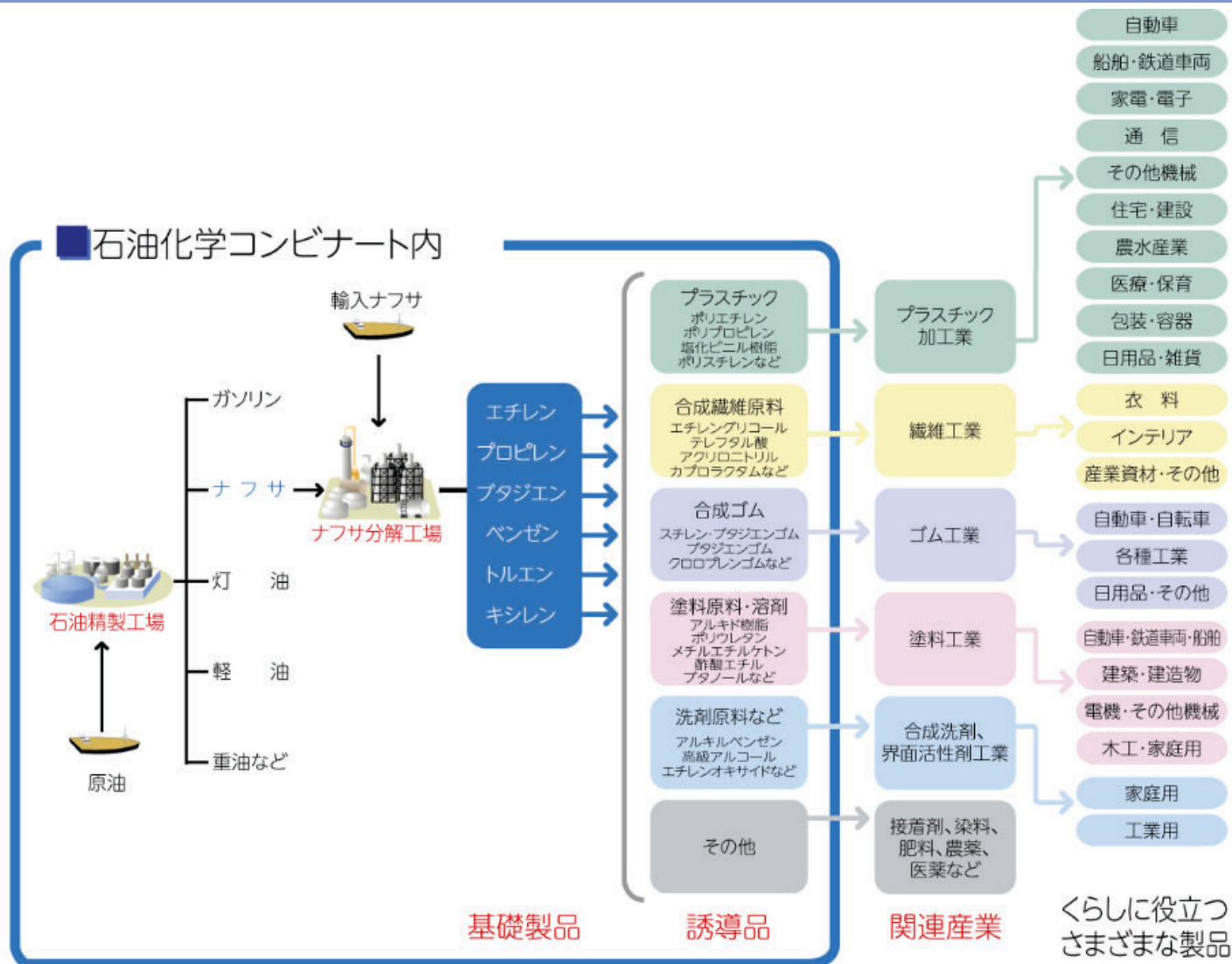
2006年に改定され、**各企業のCEOが署名**することで安全・環境活動の継続を誓約します。

この憲章は、化学産業が持続可能な発展に貢献するための国際的なコミットメントであり、6つの重要テーマで構成されています。

1. 企業のリーダーシップ：安全・環境・健康を企業の最優先課題とし、経営層が主導してRC文化を醸成する。
2. 人間と環境の保護：化学物質が環境や人体に与える影響を評価・管理し、リスクを最小限に抑える。
3. 化学品管理システムの強化：製品の安全性管理をサプライチェーン全体で徹底する。
4. ステークホルダーとの対話：社会一般や地域住民、従業員に対して化学物質に関する情報を透明に開示・対話する。
5. 革新的な技術と事業の推進：持続可能な社会の実現に向け、環境負荷の少ない安全な製品や技術を開発する。
6. パフォーマンスの測定と向上：環境保全や労働安全などの目標を定め、継続的に結果を改善し評価する。

日本では、日本化学工業協会が中心となり、**日化協会員の化学企業が**この**憲章に署名・賛同して自主的な管理を実施**

日本の化学とその影響



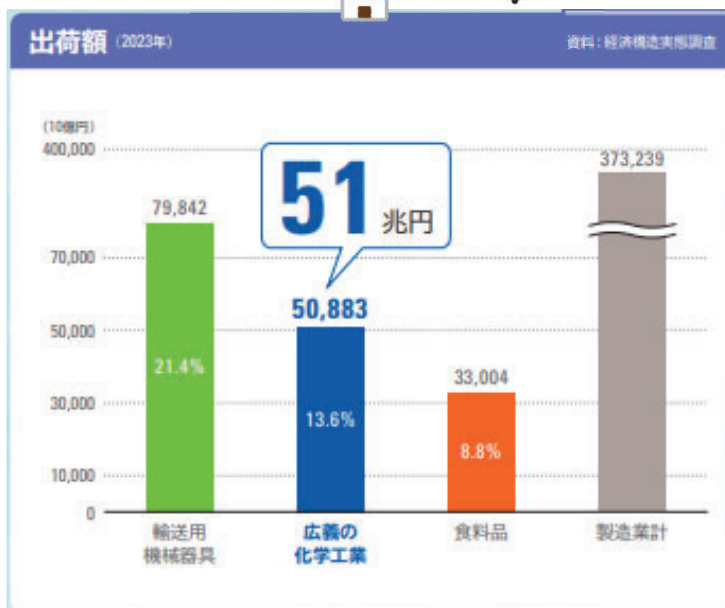
①石油精製工場

②ナフサ分解工場

③石油化学誘導品工場

④関連産業工場

日本の化学とその影響



広義の化学工業 = 化学工業 + プラスチック製品（製造業） + ゴム製品（製造業）

②構造物の評価 →地盤-構造物連成解析

動的解析により時々刻々の構造物の挙動を把握し耐震性の検討・設計を行う

安全性
経済性

③津波対策 →被害予測、避難

津波シミュレーションによる事業所内の被害想定・対策検討

①地震動の評価 →サイトスペシフィック地震動

設備に影響が大きい具体的な地震を想定
(〇〇地震、XX断層、...)

サイトスペシフィック地震動*に基づく対策検討
* 各地域（埋立地等）特有の地震動を考慮

地域消防や近隣企業との連携訓練

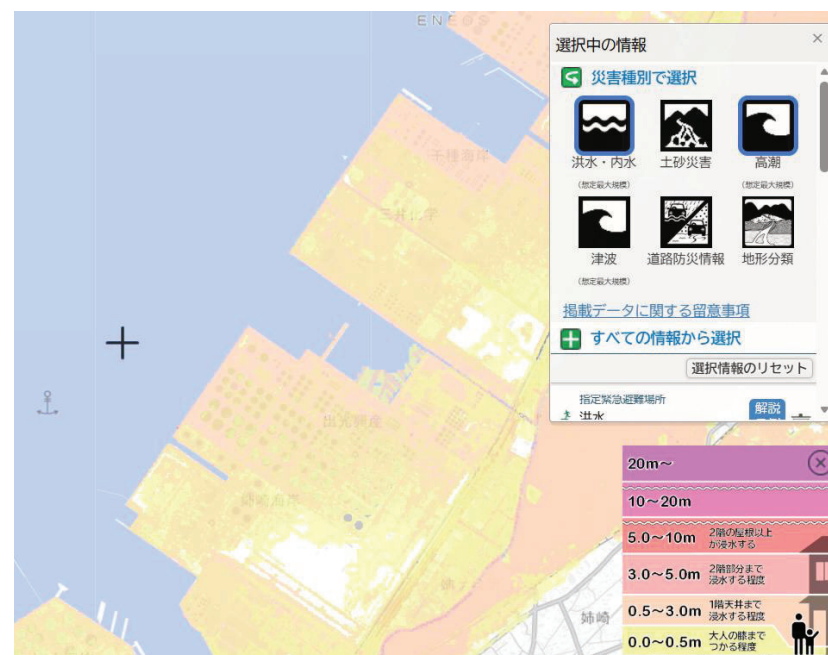


地域の消防署と連携した合同総合防災訓練



負傷者救護訓練

自治体ハザードマップに基づく防災対策 避難場所や電源の確保



- 地域対話：全国14地区（隔年）と、個別の工場・事業所（23工場，4地域）での地域住民との対話集会を実施



26年1月 川崎

- リスクコミュニケーション研修：住民の疑問や不安、想定外質問への工場スタッフの適切な対応向上を図る



模擬対話演習の様様

- 消費者対話：東京と大阪で主婦連，生協連合会，消費者団体連合の皆様と対話集会を実施



25年12月 消費者対話@東京



○ 日化協会員間での事故事例共有



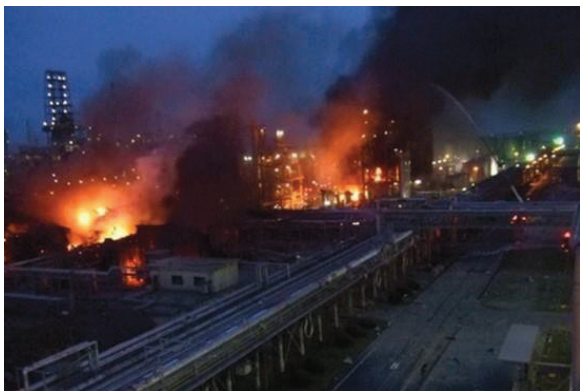
20年10月 宮崎の半導体工場火災
倉庫含む建屋内火災増加

『災害には国境がない』ことから、ベストプラクティスをグローバルに共有することで私たち全員が安全になる



○ アジア・パシフィックの各国RC協会が一同に会して、
各国取り組み紹介や講演実施。27年度は日本開催予定

約100余名が参加。（日本、インドネシア、台湾、中国、スリランカ、シンガポール、
フィリピン、タイ、ニュージーランド、マレーシア現地参加）
経産省も参加したスマート保安含め、アジア各国との交流を強化。



岩国での化学工場爆発，火災事故 2012年

十分に計画，準備（訓練）してきたことで、未明の重大事故にも対応

- ・ 事故発生直後、速やかに決められた手順にて関係官庁へ通報
- ・ 事故発生直後、地域住民に広報車にて広報活動実施
- ・ 近隣企業からの消火活動の応援等、適切な地域連携実施
- ・ 鎮火宣言後、地域住民にお詫び状を持参し訪問
- ・ 記者会見を開催し、事故の状況をマスコミに報告
- ・ 地域住民へ事故状況の説明会を実施



地域住民への説明会